

函館工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	総合英語ⅡB
科目基礎情報					
科目番号	0011	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	生産システム工学科	対象学年	2		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	Breakthrough Upgraded English Grammar in 27 lessons 改訂2版 新装版 (美誠社)、MEW Days 1200(いいずな書店)、必携英語表現集 (数研出版)、英文速読トレーニング ソクトレ150 はじめて編 (アルク出版)				
担当教員	須藤 絢				
到達目標					
1. 高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を理解し、活用・運用することができる。 2. 中学校で既習の文法事項や構文を理解し、活用・運用することができる。 3. 表現上必須の語彙力の充実を図るため500語程度の語彙が理解できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	中学校で既習の文法事項や構文を正しく理解し、活用・運用することができる。	中学校で既習の文法事項や構文をおおむね理解し、活用・運用することができる。	中学校で既習の文法事項や構文を理解できなく、活用・運用することができない。		
評価項目2	高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項を正しく理解し、活用・運用することができる。	高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文をおおむね理解し、活用・運用することができる。	高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文が理解できなく、活用・運用することができない。		
評価項目3	授業で扱う語彙の80%以上の単語を理解し、活用・運用することができる。	授業で扱う語彙の60%以上の単語等を理解し、活用・運用することができる。	授業で扱う語彙の単語等の理解が60%未満であり、活用・運用することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	相手と英語でコミュニケーションを相手と英語でコミュニケーションを図るために必要な基礎的、基本的な文法事項や構文から高校の学習指導要領に準じた発展的な文法事項や構文を身につけ、また表現上必須の語彙力の充実を図るため500語程度の語彙が理解できることを目指す。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> 総合英語Ⅰ、ⅡAで学習した文法事項の確認・整理となるのでまだ定着していない事項はしっかり復習しておくこと。 原則2回の授業を1セットで行う。 週2回の授業でLessonを1つ学習していく。スピーキング活動と速読トレーニングは毎時行う。 週2回の授業のうち、1回目は文法項目の確認、2回目はグループによる教えあいを通して文法項目への理解を深める。 				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> 1セットの1回目の授業終了後、学習した文法項目に関連した宿題を課す。2回目の授業はその宿題ができていないことを前提に進めるため、確実にやっておくこと。万が一やっていない場合は課題点より減点とする。 課題を期日までに提出しない場合は減点する。また授業中の居眠り、授業に対する態度が悪い場合等は減点及び再試の受験を認めないこともあるので注意すること。 				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス スピーキング活動 速読トレーニング11 Lesson13	授業の目的や進め方・評価の仕方を理解することができる。 不定詞を理解し、活用・運用することができる。	
		2週	Lesson 14 スピーキング活動 速読トレーニング12	不定詞を理解し、活用・運用することができる。 積極的にコミュニケーションを取ることができる。	
		3週	Lesson 15 スピーキング活動 速読トレーニング13	不定詞を理解し、活用・運用することができる。 積極的にコミュニケーションを取ることができる。	
		4週	Lesson 16 スピーキング活動 速読トレーニング14	動名詞を理解し、活用・運用することができる。 積極的にコミュニケーションを取ることができる。	
		5週	Lesson 17 スピーキング活動 速読トレーニング15	動名詞を理解し、活用・運用することができる。 積極的にコミュニケーションを取ることができる。	
		6週	Lesson 18 スピーキング活動 速読トレーニング16 小テスト	分詞を活用・運用することができる。 積極的にコミュニケーションを取ることができる。 既習の語彙を習得できる。	
		7週	Lesson 19 スピーキング活動 速読トレーニング17	分詞を活用・運用することができる。 積極的にコミュニケーションを取ることができる。	
		8週	後期中間試験		
	4thQ	9週	答案返却・解答解説 Lesson 20 スピーキング活動 速読トレーニング18	間違えたところをしっかりと理解し、テストの取り組みなどを含め反省することができる。関係詞を理解し、活用・運用することができる。 積極的にコミュニケーションを取ることができる。	
		10週	Lesson 21 スピーキング活動 速読トレーニング19	関係詞を理解し、活用・運用することができる。 積極的にコミュニケーションを取ることができる。	
		11週	Lesson 22 スピーキング活動 速読トレーニング20	関係詞を理解し、活用・運用することができる。 積極的にコミュニケーションを取ることができる。	
		12週	Lesson 23 スピーキング活動 速読トレーニング21	比較を理解し、活用・運用することができる。 積極的にコミュニケーションを取ることができる。	

		13週	Lesson 25 スピーキング活動 速読トレーニング22	仮定法を理解し、活用・運用することができる。
		14週	小テスト スピーキング活動 速読トレーニング23	積極的にコミュニケーションを取ることができる。 既習の語彙を習得できる。
		15週	学年末試験	
		16週	答案返却・解答解説	間違えたところをしっかりと理解し、テストの取り組み などを含め反省することができる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会 科学	英語	英語運用の 基礎となる 知識	中学で既習の1200語程度の語彙を定着させるとともに、2600語 程度の語彙を新たに習得する。	2	
				中学校で既習の文法事項や構文を定着させる。	2	
				高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を 習得する。	2	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じ た文法や文構造を習得して適切に運用できる。	2	
			英語運用能 力の基礎固 め	説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わる ように音読ができる。	2	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報 を読み取ることができる。	2	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、 100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	2	
			英語運用能 力向上のた めの学習	自分や身近なことについて100語程度の簡単な文章を書くことが できる。	2	
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアル などの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	2	

評価割合

	試験	小テスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	課題	合計
総合評価割合	60	20	0	0	0	20	100
基礎的能力	50	20	0	0	0	10	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	10	0	0	0	0	10	20